

不動の滝

春の花といえば、桜の花が思い浮かびます。三豊市には、多くの桜の名所があり、春になると花見で賑わいます。そのうちのひとつ、落差50mほどの巨大な不動の滝とともに眺める桜は、見るものを圧倒する美しさがあります。

不動の滝は七宝山の南西部に位置します。昭和42年に豊中町指定名勝になり、現在は市指定名勝になっています。不動の滝の名前は、弘法大師が修行の際に、不動明王の像を岸壁に刻んだことが由来とされています。現在も滝壺の近くに不動明王の像が据えられ、近くには不動堂が建立されています。

クスノキやノグスミなどが生い茂り、V字谷を通過して水が轟々と流れ落ちる滝の周辺を巡るように、遊歩道が整備されています。その遊歩道を歩きながら、県の緑地環境保全地域にも指定されている豊かな自然に触れたり、さまざまな野鳥や昆虫を観察したりすることができます。滝の頂上に登ることもでき、そこから見渡す景色はまさに絶景といえます。

また、滝から東に広がる扇状地では、弥生時代の土器が発見されており、この地域に弥生時代の集落があった可能性が考えられます。豊中町では明確な弥生時代の遺跡が確認されていないことから、この地域の重要性がうかがえます。また、近くには中世の山城である岡本城もあり、名勝のみならず、遺跡としての魅力も持ち合わせています。

不動の滝では、季節ごとに春は桜、秋は紅葉といったすばらしい自然を堪能できます。今年の花見はもちろんのこと、ふと自然に触れてみたくなった時には、古代の人々も楽しんでいただろう自然美が広がる不動の滝に足を運んでみてはいかがでしょうか。 <生涯学習課>



今月の市民力

市内の介護保険施設を中心に、音楽で元気を届ける仁尾軽音楽同好会「ブルードラゴン」。リーダーの中井良祐さん（83歳）と浪越芳雅さん（83歳）の呼びかけで平成18年に結成して、演歌や童謡を中心に演奏しています。大半のメンバーがバンド結成時から音楽を始めたそうですが、その腕前は本物。慰問先で演奏すると、皆リズムに乗って手をたたいたり、口ずさんだり、中には涙を流す人もいます。これからも「いつまでも青春」の気持ちを皆さんに届けてください。

